養護教諭向け研修プログラム～心理・福祉分野に強みを持つ養護教諭の養成・育成プログラム～

文部科学省

●養護教諭向け研修プログラム

- 現職養護教諭が、日々の実践を心理・福祉的視点から振り返り、スキル向上を図るため、養護教諭に近年求められる「気付き（アセスメント）」「関わり（支援）」「つなぎ（連携）」の実践的な資質能力を講義＋演習を通じて修得することを目的とし、研修プログラムを開発。
- 都道府県教育委員会等が、**養護教諭向けの研修で活用**できるよう、**心理福祉共通・心理・福祉の3つの研修プログラム**の講義スライドと解説ノートを作成。校内研修も含め、様々な研修で柔軟に活用できるよう、60分程度で完結する内容となっている。
- 実践の根拠、外部機関との連携フローや関わり方が可視化されており、経験の浅い養護教諭にとっては、**支援・連携の進め方を理解する上で有意義**であり、また、ベテラン養護教諭にとっては、**経験知を整理・体系化し、実践の強みにする機会**になる。

●プログラム1 養護教諭のための心理支援・福祉連携基礎 （心理福祉共通）

目的：保健室を基盤に、心の健康課題の兆候に早期に気付き、心理社会的アセスメントによる見立て、学校の実際に即した支援、校内外の関係者との協働を実践できる力を養う。

第1部（基礎理論）	：	子供たちの心身にかかわる現代的課題、保健室の機能と養護教諭の専門性、健康相談のプロセス
第2部（演習）	：	事例検討（発達特性、家庭の貧困等を抱える小学校6年生の事例）、アセスメントと支援立案（校内・校外との連携シミュレーション等）
第3部（まとめ）	：	養護教諭・教員が留意したい視点（無意識の偏見への気づき、障害特性の理解等）

●プログラム2 養護教諭のための支援基礎・発展 （心理）

目的：保健室で把握される心理的サインを理解し、発達や心身の状態を踏まえて見立て、養護教諭が行う心理的支援の基本的な考え方と方法を理解する。

第1部（「心の病気」と基礎知識）	：	思春期に現れやすい疾患、現代的課題（オーバードーズ等の自傷行為への対応）
第2部（心の問題の捉え方）	：	氷山モデル（見えない部分を見る視点）、トラウマの理解
第3部（どの子にも安全で安心できる環境を）	：	トラウマインフォームドケア、ロールプレイ演習
第4部（まとめ）	：	児童生徒等を肯定する存在としての養護教諭の在り方



●プログラム3 養護教諭のための福祉支援と多職種連携の基礎・発展 （福祉）

目的：権利擁護を基盤に、心身の健康と生活環境を結び付けて捉え、課題の兆候に早期に気付き、校内外の専門職や社会資源と協働できる力を養う。

第1部（学校における福祉的視点の必要性）	：	現代の福祉的課題（児童虐待、ヤングケアラー等）、権利擁護（子供の権利条約に基づいた支援の必要性）
第2部（生活課題の理解）	：	気付きの視点（保健室来室時や日常観察からサインを読み取る）
第3部（校内支援と多職種連携）	：	ケース会議の実際、関係機関（要保護児童対策地域協議会等）との連携、事例検討
第4部（まとめ）	：	社会福祉の理念と養護教諭が発揮すべき専門性

掲載URL（文部科学省HP）：https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1384931.htm